

小学校 第6学年 音楽科 学習指導案

北海道旭川市立神楽小学校
教諭 三村 仁

題材名 短調のひびき（3時間）

**題材の
ねらい**

- 曲想と調など音楽の構造との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、八長調やイ短調の楽譜を見て、歌ったり演奏したりする技能を身に付ける。
- 調、和音の響き、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもったり、曲のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いたりする。
- 長調と短調の響きの違いに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、音楽に対する感性を育む。

**本時の
ねらい**

イ短調と八長調の音階や和音の響きを聴き比べ、その違いを感じ取るとともに、リコーダーの難しい運指（＃ソなど）を確認し、旋律を演奏することができる（第1時）。

指導時期

5月上旬～5月中旬

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

【従来からの課題】

「指導者用デジタル教材」が存在する以前は、本題材の核である「イ短調と八長調の響きの違い」を児童が捉える場合、音源の特定箇所を瞬時に切り替えて比較再生することが、技術的に困難であった。

また、和音の構成や「＃ソ」を含む複雑な運指の提示は、板書や個別の実技指導に頼らなければならない場合が多く、クラス全体での視覚的な共有に限界があった。

合奏においても、旋律や低音の各役割を個別に提示したり、D.C.（ダ・カーポ）やFine（フィーネ）といった曲の構造を全員でリアルタイムに追ったりすることが難しく、児童が演奏箇所を見失いやすい点も大きな課題であった。音と視覚情報がうまく連動しないことが、曲の構造を理解する上で壁となっていた。




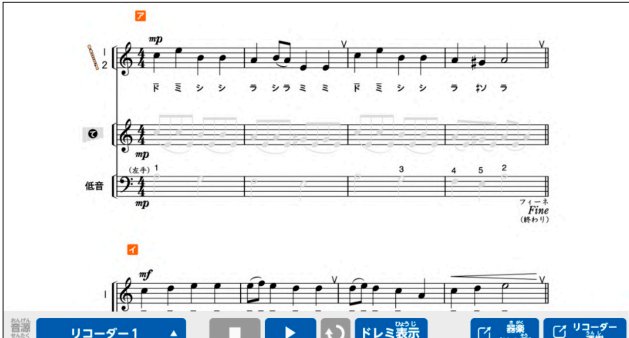
【指導者用デジタル教材への期待】

「指導者用デジタル教材」を活用することで、音と視覚情報を一体的に提示できるようになる。まず、イ短調と八長調の音階や和音をボタン一つで切り替えて聴かせることで、児童は響きの違いを直感的に捉えられるようになる。

また、リコーダーの「＃ソ」などの複雑な運指を拡大図や動画で提示できるため、技能の習得が効率化される。

合奏では、パート別再生により役割の理解が深まる。再生箇所をリアルタイムで示す機能は、D.C.などの曲の構造の把握を助け、演奏箇所の見失いを防ぐ。

このように、音と視覚情報の連動は、曲の構造を理解する上で、大きな支援となることが期待できる。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
<p style="text-align: center;">導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 	
	<p>「マルセリーノの歌」の主旋律を歌ったりリコーダーで演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 範奏を聴き、大まかに曲の感じを捉える。 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 初回の範奏は、画面を隠して音のみ再生する。 ● 演奏箇所のハイライト表示を利用して、D.C.とFineについて説明する。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 曲全体の旋律の感じについて、気付いたことを出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ◎：途中から明るい感じに変わった。 ◎：明るい感じに変わるところは、高音と低音のパートに分かれていた。 ◎：音が重なってきれいな曲だと感じた。 ◎：同じようなメロディーが繰り返されていたね。 ● 演奏順序を確認する。 ● 階名唱で音を確かめる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 児童が気付いたことについて、楽譜を使いながら確認する。  <ul style="list-style-type: none"> ● 「パート別」を選択し、「リコーダー1」「リコーダー2」を選択すると、着目すべきパートのみ表示できる。 ● 「ドレミ表示」を選択することで、階名唱がしやすくなる。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<p>イ短調とハ長調の違いについて理解する。</p> <p>T：みなさんが気付いた「途中で明るくなった」ということについて、そう感じる秘密があります。今から、AとBを聴いてもらいます。 (A：イ短調の音階、B：ハ長調の音階)</p> <p>C：Aは暗い感じ、Bは明るい感じだ。</p> <p>C：「マルセリーノの歌」の前半はA、後半はBじゃないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● イ短調について知り、聴き比べながらハ長調との違いについて理解する。 ● イ短調とハ長調で、よく使われる和音について扱う。 ● 和音と「マルセリーノの歌」の楽譜の旋律や「鉄琴」「低音」パートに使われている音と比較し、曲想と調との関わりについて理解できるようにする。 	<div data-bbox="853 168 1484 582"> <p>イ短調とハ長調の音階</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 初回は、画面を隠して音のみ再生する。 ● 児童が気付いたことについて、画面を見ながら確認する。 <div data-bbox="853 705 1484 1086"> <p>イ短調とハ長調で、よく使われる和音</p> </div>
まとめ	<p>次回は「マルセリーノの歌」を、リコーダーで二部合奏することを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● #ソや上ファの運指を確認する。 	<div data-bbox="853 1131 1484 1556"> <p>まなびリンク</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 「まなびリンク」も活用する。

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

【指導者側のメリット】

「指導者用デジタル教材」の活用は、指導の効率化と質的な向上をもたらす。まず、音源の瞬時切り替えにより、イ短調とハ長調の比較を淀みなく提示できる。また、複雑な運指や音階の拡大表示が可能となり、板書の負担が軽減されるとともに、正確な視覚情報をクラス全体で共有できる。さらに、演奏箇所が自動表示されることで、教師は操作に追われることなく、児童の困り感に寄り添う個別指導に時間を充てられるようになる。

こうした技術的支援により、「曲のよさを見いだす」といった音楽の本質に踏み込んだ発問や対話に、より注力できることが大きなメリットである。

【学習者側のメリット】

学習者は、自身の感覚と曲の構造をより密接に結びつけることができる。まず、再生中の箇所が楽譜上でハイライト表示されることで、D.C.などの複雑な曲構成の中でも、視覚的に演奏箇所を見失わず安心して演奏に集中できる。また、リコーダーの難しい運指を動画などで繰り返し確認できるため、自身の習熟度に応じた技能習得が可能になる。さらに、パート別音源を聴くことで、響きの重なりや役割を直感的に理解し、それに基づいた「自分なりの表現」を工夫する活動へとスムーズに移行できるメリットがある。